

(別紙1)

学位論文審査の結果の要旨	
専攻	畜産衛生学専攻 (博士後期課程)
氏名	Randrianantoandro Tiana Navalona
審査委員署名	主査 耕野 拓一 副査 木田 克弥 副査 小川 晴子 副査 仙地 彦彦 副査 西田 武弘
題目	Economic analysis of farmers' behavior and incentive towards African swine fever control in Madagascar (マダガスカルのアフリカ豚コレラ対策における農家行動とインセンティブの経済分析)
審査結果の要旨 (1,000 字程度)	
<p>アフリカ豚コレラ (African swine fever, 以下 ASF) は、アフリカの畜産部門にとって最も懸念される豚の疾病の一つである。ASF はアフリカの 28 カ国で流行しており、致死率は非常に高く、その発生は農村・社会に多大な経済的影響を与える。本研究の目的は、マダガスカルで行った実態調査により、感染拡大の背景にある農家行動に焦点を当て、ASF 感染拡大の要因を解明し、ASF の適切な制御に資する政策提言を行うことにある。</p> <p>具体的には次の3つの研究課題について明らかにしようとした。研究課題1は、マダガスカルで行われる違法な ASF 感染豚の販売の要因を Item Count Technique (以下、ICT) の手法により明らかにすることである。研究課題2は、農家が ASF 感染豚の違法販売をせず、政府に感染豚の存在を報告するために必要な経済的インセンティブを、仮想市場評価法 (以下、CV 法) により明らかにすることである。研究課題3は、マダガスカルの社会的相互扶助慣行“fihabanana”が ASF 感染拡大に与える要因をシステムダイナミクス (以下、SD 法) の手法により明らかにすることにある。</p>	

研究課題 1 では、ASF の知識をたずねた質問項目に関して、28%の農家が「ASF は人間の健康に負の影響を及ぼす」と誤って理解しており、ICT の分析からは、過去に ASF が発生したことのある農家のうち、約 73.2%が ASF 感染肉を違法に販売した経験を持つことがわかった。また、ASF 感染豚を違法に販売している農家は、感染豚の人間への健康被害を懸念して、農場での ASF 感染の事実を隠している可能性が明らかになった。

研究課題 2 では、ASF 発生の経験のない農家は、経験農家と比較して、ASF の症状に関する知識量が少ないことが明らかとなった。また、CV 法により、ASF 感染を政府に報告し、豚が殺処分された場合の受入補償額を推計した。分析の結果、補償額が増加するにつれて、より多くの農家が ASF 発生を適切に報告する可能性が高まることが明らかになった。

研究課題 3 では、ASF 感染豚を購入したことのある全ての農家が、相互扶助慣行“fihavanana”のもとで ASF 感染豚を購入しており、これが ASF 感染拡大の一要因となっていることが明らかとなった。また、豚殺処分への補償割合が増加しても、その費用は便益よりも小さいことが明らかとなった。

本研究は、マダガスカルでの実態調査を踏まえた、疫学と経済分析を融合させた興味深い研究であり、ASF 発生時の殺処分への補償制度の経済的有効性や、相互扶助慣行“fihavanana”の禁止など、具体的な政策提言を導いている。これらは、ASF が発生している他のアフリカ諸国への参考にもなるもので、研究成果の社会的意義も大きい。

以上について、審査委員全員一致で本論文が帯広畜産大学大学院畜産学研究科博士後期課程の学位論文として十分価値があると認めた。

学位論文の基礎となる学術論文

1) 題 目: Knowledge and behavior in an animal disease outbreak - Evidence from the Item Count Technique in a case of African swine fever in Madagascar

著 者 名: Tiana N. Randrianantoandro, Hiroichi KONO, Satoko Kubota

学術雑誌名: Preventive Veterinary Medicine

(巻・号・頁) (118 巻・4 号・483-487 頁)

発行年月: 2015 年 3 月

2) 題 目: Farmers' knowledge and incentive in reporting infectious animal disease: The case of African swine fever in Madagascar

著 者 名: Tiana N. Randrianantoandro, Satoko Kubota and Hiroichi KONO

学術雑誌名: The Journal of Animal and Plant Sciences

(巻・号・頁) (In press)

発行年月: 2018 年 2 月に発行予定

(別紙2)

最終試験の結果の要旨	
専攻	畜産衛生学専攻（博士後期課程）
氏名	Randrianantoandro Tiana Navalona
審査委員署名	主査 新野 拓一 副査 木田 克弥 副査 小川 晴子 副査 仙石 泰康 副査 西田 武弘
実施年月日	平成29年8月3日
試験方法 (該当のものを○で 囲むこと)	<input checked="" type="radio"/> 口頭・筆記
要 旨	
<p>主査および副査の5名は、学位申請者に対し、帯広畜産大学総合研究棟I号館E2204/2205室において、学位申請者本人に口頭発表による学位論文内容の説明を行わせ、その内容について質疑応答を行った。また、関連する専門知識について口頭により試問を行った。</p> <p>その結果、学位申請者が帯広畜産大学大学院畜産学研究科博士後期課程畜産衛生学専攻の修了者としてふさわしい学力および見識を有すると判断し、博士（畜産衛生学）の学位を授与するに値すると判断した。</p>	